

逍遙館長のところ

「鳥津斉彬・強く豊かな国 日本、の ところ」

2月2日 逍遙^{逍遙}

今回は、西郷隆盛との関係で、鳥津斉彬の考え方について少し触れましたが、今日2月2日は、その斉彬が第11代薩摩藩主に「ようやく」就いた日です。

そこで逍遙館長的に思うのは、これだけの英明君主が、なぜ薩摩に、そしてなぜこの時期に存在し得たのか、という素朴な疑問であり、そして今の時代への率直な問いかけであります。斉彬の幼い頃から、その養育や教育を乳母らに委ねず自ら熱心に取り組んだ母君・弥姫の存在、あるいは「蘭癖」とも言われるほど西洋に強い関心を示した、斉彬の曾祖父・重豪の影響、さらには薩摩藩自体が、日本の他地域よりも早く、強大な軍事力をちらつかせながら通商を迫る西洋列強の激しい外圧にさらされ、このままでは中国の次に日本が植民地化されるとの危機感があった等、背景は色々あるのでしょう。

これら諸々の結果が、この時代に、しかも絶妙のタイミングで、「鳥津斉彬」という存在に結実した偶然、そしてある意味必然。「強く豊かな国 日本」を目指した斉彬の眼に、今の日本、そして鹿児島はどう映っているのでしょうか。

◎ 次回の予定 「今に、そしてこれからに」生かす歴史と「むしも、の ところ」

